

小学生の時 父に渋谷のプラネタリウムを見に連れて行ってもらった。どんな星空が映し出されたのが全く記憶にないがドームの前のショールームに天体望遠鏡が並んでいたのだけは覚えている。値段を見ただけであきらめたのも覚えている。あの頃から天文に興味を持ち望遠鏡の自作が始まった。

1. ガリレイ式屈折望遠鏡 (製作 小学6年)

- ・対物レンズ： 40 mm、F 250mm
- ・接眼レンズ： F? 凹レンズ
- ・鏡筒： 農業用ビニールシートを巻くボール紙製の筒を利用

倍率は5倍程度であったが月のクレーターを何とか見ることができた。このレンズ構成は正立像となるため、もっぱら地上の風景を見て楽しんだ。



今も健在の望遠鏡

2. ケプラー式屈折望遠鏡 - (製作 中学3年)

- ・対物レンズ： 45 mm / F 550mm 単レンズ、父が眼鏡を作ったメガネ屋さんで手に入れた
- ・接眼レンズ： F 10 mm オモチャの双眼鏡から外して利用

かなりの色収差があったが月のクレーターや木星の4大衛星が観測できた。



カメラ用三脚にマウント

3. ケプラー式屈折望遠鏡 - (製作 高校2年)

- ・対物レンズ： 60 mm / F 800 mm
2枚複合アクロマート (¥3,000!)
- ・接眼レンズ： F 6 mm / 20 mm (ダウエル光学製)
- ・鏡筒： 近所のブリキ屋に特注した“雨どい”

色収差を補正した本格的レンズ構成でシャープな像が得られた。満ち欠けする金星、木星の縞、土星の輪などを観測。月面のコリメート撮影を何回か試みたがカメラが一眼レフでなかったため失敗に終わっている。



三脚も当時の自作品である

4. ニュートン式反射望遠鏡

- ・主鏡： 200 mm / F 1200 mm ドブソニアン型
(詳細は「テレスコープ技報1~5」に紹介)

最近 時間的ゆとりが多少できたので再び熱中している。専門書やカタログを見ながら次期型をイメージする。¥ を気にしなければいくらでもいい物が手に入るのだが自作も楽しみのひとつ。次は口径 400 mm クラスにしようか、ますますエスカレートして行きそうである。